

野球記録あら？カルト Vol.28

<No.271 1月生まれ選手の通算成績(打者編)(2007/1/28)>

打率部門(通算 1000 打席以上)では、青木宣親(ヤクルト)が打率.330(1202 打数 397 安打)で 1 位にランクインを果たした。日本人選手が 1 位にランクインされたのは、1988 年正田耕三(広島)(=打率.319)以来、18 年ぶり。正田は 1994 年に 1 位から陥落。その後 C.マニエル(近鉄)が再び 1 位に返り咲くも、2001 年 S.オバンドー(日本ハム)が打率.307 で 1 位に。だがそのオバンドーも翌年にはマニエルに首位の座を明け渡している。青木の打撃能力と最大の武器である足を考慮すると、青木の 1 位の座は不動のように思える。

青木は打率だけではなく、出塁率の部門でもマニエルの座を奪った。マニエルの.385 を僅かながら上回る、出塁率.390 を記録。だが、この部門ではまだまだ不動の地位と言えず、まずは今期、出塁率 4 割を記録して欲しいものだ。1 月生まれのセントラル・リーグの日本人打者でシーズン出塁率 4 割を記録したのは、1982 年田尾安志(中日)以来、おらず、青木が 25 年ぶりの記録に挑戦する。

1 月生まれの実績あるベテランと言えば、鈴木健(ヤクルト)が挙げられる。今期実働すると、実働 19 年となり、1 月生まれの実働 19 年以上は歴代 5 位である。通算記録で上位 3 傑に入っているのは犠飛と四球(ともに 3 位)。犠飛は現在 51 犠飛を記録しており、あと 1 犠飛で 2 位の石嶺和彦(阪神)と並ぶ。四球は 2 位と 80 四球差があり、超えるのは厳しいと言える。上位 3 傑に入りそうなのは二塁打。現在 283 二塁打を記録し、3 位毒島章一(東映)とは 3 二塁打差。1980 年衣笠祥雄(広島)が 3 位入線を果たして以来、27 年ぶりの上位変動が見られそうだ。

もう一人のベテランを紹介したい。水口栄二(オリックス)だ。犠打部門で 2 位の 278 犠打を記録。1 位正田耕三(広島)は 282 犠打であり、今期 1 位の名前が変わるかもしれない。

[記録は 2006 年末現在]

1月生まれ選手の主要部門通算成績上位 10 傑

打率			出塁率			長打率		
名前	所属	打率	名前	所属	出塁率	名前	所属	長打率
青木 宣親	(ヤクルト)	.330	青木 宣親	(ヤクルト)	.390	Charles Manuel	(ヤクルト)	.604
Charles Manuel	(ヤクルト)	.303	Charles Manuel	(ヤクルト)	.385	Tony Solaita	(日本ハム)	.571
Sherman Obando	(日本ハム)	.294	Sherman Obando	(日本ハム)	.376	Fernando Seguinol	(日本ハム)	.552
栗原 健太	(広島)	.290	Tony Solaita	(日本ハム)	.373	Sherman Obando	(日本ハム)	.540
中畑 清	(読売)	.290	松木 謙次郎	(大阪)	.370	Gene Martin	(大洋)	.529
Terry Whitfield	(西武)	.289	蔭山 和夫	(南海)	.367	Terry Whitfield	(西武)	.527
田尾 安志	(阪神)	.288	Fernando Seguinol	(日本ハム)	.365	Adrian Garrettt	(広島)	.526
Jim Tyrone	(南海)	.287	宮川 孝雄	(広島)	.365	Nigel Wilson	(近鉄)	.517

正田 耕三	(広島)	.287	鈴木 健	(ヤクルト)	.362	新井 貴浩	(広島)	.493
真中 満	(ヤクルト)	.286	吉原 正喜	(巨人)	.362	栗原 健太	(広島)	.488

※1000 打席以上

1月生まれ現役選手の上位入線部門

犠打			犠飛			四球		
名前	所属	犠打	名前	所属	犠飛	名前	所属	四球
正田 耕三	(広島)	282	松原 誠	(読売)	70	衣笠 祥雄	(広島)	931
水口 栄二	(オリックス)	278	石嶺 和彦	(阪神)	52	山田 潔	(大映)	739
西村 徳文	(ロッテ)	174	鈴木 健	(ヤクルト)	51	鈴木 健	(ヤクルト)	659
安井 俊憲	(近鉄)	146	衣笠 祥雄	(広島)	50	毒島 章一	(東映)	635
北村 照文	(中日)	122	毒島 章一	(東映)	47	松原 誠	(読売)	587
池辺 巖	(近鉄)	121	島谷 金二	(阪急)	45	島谷 金二	(阪急)	545
山田 潔	(大映)	107	森 昌彦	(読売)	40	蔭山 和夫	(南海)	535
長谷川 善三	(高橋)	107	水口 栄二	(オリックス)	35	安井 亀和	(トンボ)	513
広瀬 哲朗	(日本ハム)	104	中畑 清	(読売)	35	苅田 久徳	(近鉄)	469
吉竹 春樹	(西武)	102	池辺 巖	(近鉄)	33	田尾 安志	(阪神)	467
			河野 旭輝	(西鉄)	33			

<No.272 2月生まれ選手の通算成績(打者編)(2007/2/3)>

2月生まれの現役選手が、積算記録部門で今期新たに上位3傑に入線するのはほんの一握りの部門だけである。上位記録選手には、門田博光、長嶋茂雄、柴田勲といった2000安打トリオが多くの部門で君臨している。新たに、となると、谷佳知(読売)、大村直之(ソフトバンク)に期待を寄せたい。

谷は今年岩村明憲(ヤクルト、現デビルレイズ)に奪われた打率部門(1000打席以上)3位を奪還できるであろうか。差は僅か8毛差。今期の打数を400と仮定した場合124安打、打率.310が必要となっている。リーグの移籍というハンディを乗り越え、3年ぶりの3割到達なるか、期待したい。

2月生まれ最多の犠打(=162)を記録している大村。上位3傑に間違いなく入線するのは、盗塁死である。現在通算87盗塁死、3位鈴木武(大洋)とはわずか2個差。シーズンを棒に振る怪我等なければ、ここ4年で43盗塁死を記録している大村の3傑入りは疑いのないところである。

[記録は2006年末現在]

2月生まれ選手の主要部門通算成績上位10傑

打率			出塁率			長打率		
名前	所属	打率	名前	所属	出塁率	名前	所属	長打率
Tommy Cruz	(日本ハム)	.310	門田 博光	(ダイエー)	.379	Carlos Ponce	(大洋)	.555
長嶋 茂雄	(読売)	.305	長嶋 茂雄	(読売)	.379	長嶋 茂雄	(読売)	.540
岩村 明憲	(ヤクルト)	.300	児玉 利一	(大洋)	.373	長池 徳二	(阪急)	.534
谷 佳知	(オリックス)	.299	豊田 泰光	(アトムズ)	.372	門田 博光	(ダイエー)	.529
田宮 謙次郎	(大毎)	.297	岩村 明憲	(ヤクルト)	.366	岩村 明憲	(ヤクルト)	.519
坪井 智哉	(日本ハム)	.297	田宮 謙次郎	(大毎)	.364	Tommy Cruz	(日本ハム)	.504
Carlos Ponce	(大洋)	.296	Don Buford	(南海)	.363	Gail Hopkins	(南海)	.483
門田 博光	(ダイエー)	.289	坪井 智哉	(日本ハム)	.360	高井 保弘	(阪急)	.465
長池 徳二	(阪急)	.285	谷 佳知	(オリックス)	.357	豊田 泰光	(アトムズ)	.465
Gail Hopkins	(南海)	.282	長池 徳二	(阪急)	.356	初芝 清	(ロッテ)	.455

※1000打席以上

2月生まれ現役選手の上位入線部門

盗塁死			犠打			死球		
名前	所属	盗塁死	名前	所属	犠打	名前	所属	死球
柴田 勲	(読売)	193	大村 直之	(ソフトバンク)	162	田宮 謙次郎	(大毎)	104
豊田 泰光	(アトムズ)	121	鈴木 武	(大洋)	134	大村 直之	(ソフトバンク)	63
鈴木 武	(大洋)	89	岡本 伊三美	(南海)	103	門田 博光	(ダイエー)	62
大村 直之	(ソフトバンク)	87	馬場 敏史	(ヤクルト)	97	初芝 清	(ロッテ)	59
長嶋 茂雄	(読売)	81	木戸 克彦	(阪神)	95	柴田 勲	(読売)	48
岡本 伊三美	(南海)	74	服部 敏和	(日本ハム)	84	種茂 雅之	(阪急)	46
小池 兼司	(南海)	68	斎藤 雅樹	(読売)	84	坪井 智哉	(日本ハム)	46
平山 智	(広島)	67	高須 洋介	(楽天)	82	長嶋 茂雄	(読売)	43
矢ノ浦 国満	(読売)	64	梅田 邦三	(日本ハム)	78	広岡 達朗	(読売)	39

田宮 謙次郎	(大毎)	61	豊田 泰光	(アトムズ)	77	Don Buford	(南海)	37
長池 徳二	(阪急)	61	広岡 達朗	(読売)	77			
			水沼 四郎	(中日)	77			

<No.273 3月生まれ選手の通算成績(打者編)(2007/2/10)>

2月生まれ選手同様、いや、それ以上と断言していいほど3月生まれの現役選手が通算記録部門で上位にいない。犠打部門で中嶋聡(日本ハム)が2位(=147犠打)、併殺打で磯部公一(楽天)が5位(=124併殺打)がいる程度である。

率の三部門で見ると、今期ソフトバンクからロッテへ移籍したJ.ズレタが2位にいる。だが、トップのR.パースとは1割近くの差があり、逆転することは極めて難しい。むしろ3位G.アルトマンとの差が7厘差しかなく、強力な投手陣を誇るソフトバンクとの対戦が移籍により出てきたことを考慮すると、3位に落ちる可能性は十二分にあると言える。

[記録は2006年末現在]

3月生まれ選手の主要部門通算成績上位10傑

打率			出塁率			長打率		
名前	所属	打率	名前	所属	出塁率	名前	所属	長打率
Randy Bass	(阪神)	.337	Randy Bass	(阪神)	.418	Randy Bass	(阪神)	.660
Robert Rose	(横浜)	.325	Robert Rose	(横浜)	.402	Julio Zuleta	(ソフトバンク)	.568
Leron Lee	(ロッテ)	.320	川上 哲治	(読売)	.383	George Altman	(阪神)	.561
川上 哲治	(読売)	.313	Leo Gomez	(中日)	.382	Leron Lee	(ロッテ)	.542
George Altman	(阪神)	.309	Leron Lee	(ロッテ)	.382	Leo Gomez	(中日)	.532
Larry Raines	(阪急)	.302	Julio Zuleta	(ソフトバンク)	.378	Robert Rose	(横浜)	.530
高木 好一	(大洋)	.295	George Altman	(阪神)	.378	Matt Winters	(日本ハム)	.525
Leo Gomez	(中日)	.293	Matt Winters	(日本ハム)	.376	多村 仁	(横浜)	.524
Julio Zuleta	(ソフトバンク)	.291	榎 嘉一	(名古屋)	.370	大杉 勝男	(ヤクルト)	.519
阿部 慎之助	(読売)	.287	高木 好一	(大洋)	.366	George Arias	(読売)	.517

※1000打席以上

3月生まれ現役選手の上位入線部門

犠打			併殺打			死球		
名前	所属	犠打	名前	所属	併殺打	名前	所属	死球
小川 博文	(横浜)	168	大杉 勝男	(ヤクルト)	266	竹之内 雅史	(阪神)	166
中嶋 聡	(日本ハム)	147	中村 武志	(楽天)	158	大杉 勝男	(ヤクルト)	85
蓑田 浩二	(読売)	139	Robert Rose	(横浜)	144	岩本 義行	(東映)	75
山下 大輔	(大洋)	131	小川 博文	(横浜)	143	高橋 慶彦	(阪神)	64
中村 武志	(楽天)	121	磯部 公一	(楽天)	124	蓑田 浩二	(読売)	61
鎌田 実	(阪神)	109	大田 卓司	(西武)	116	Robert Rose	(横浜)	57
上田 藤夫	(阪急)	107	Leron Lee	(ロッテ)	115	Julio Zuleta	(ソフトバンク)	57
近藤 和彦	(近鉄)	99	吉田 勝豊	(西鉄)	110	阿部 慎之助	(読売)	46
古川 清蔵	(阪急)	95	竹之内 雅史	(阪神)	106	川上 哲治	(読売)	44
米田 哲也	(近鉄)	86	大和田 明	(南海)	102	関根 潤三	(読売)	42

<No.274 規定以上で翌年登録名変更(打者編)(2007/2/11)>

近年は多く見られるようになった登録名変更。1リーグ時代よりあった事であるが、近年はカタカナ登録やローマ字登録といった昔にはない類の登録が増えたといえる。今期、西岡剛(ロッテ)が登録名をTSUYOSHIと変更した。前年規定打席(打数)以上到達の選手が登録名を変更したのは、2003年小関竜弥(西武)以来4年ぶり53人目。ロッテ系譜で見ると、1991年佐藤兼伊知以来16年ぶり6人目のことである。

前年盗塁王のタイトルを獲得した選手がなぜ、と思いたくなる。ゲンを担ぐ事が多いと言われる野球選手の中で、タイトル獲得を果たした登録名はゲンの良い名前と言えよう。2リーグ制以降でタイトル獲得の翌年登録名を変更したのは、1962年山内一弘(大毎)と1963年森永勝也(広島)の2人しかいない。

打点王を獲得した山内は翌年本塁打、打点の数字は落としたものの、打率は5位から2位へ引き上げた。森永は首位打者の翌年、規定打席に届くことが出来ず、打率も3分以上落とした。TSUYOSHIの今期はどのような目が出るのであろうか。

[記録は2006年末現在]

年間規定到達の翌年、登録名変更(ロッテ系譜)

年度	名前	打率	順位	打数	安打	本塁打	打点	盗塁
1951	本堂 保次	.231	③④	325	75	3	32	7
1952	本堂 保弥	.270	②②	422	114	6	56	15
1954	荒川 博	.270	⑩⑧	374	101	5	25	6
1955	荒川 博久	.265	⑤⑤	374	99	3	34	2
1961	山内 和弘	.311	⑤⑤	498	155	25	112	6
1962	山内 一弘	.334	②②	470	157	18	72	3
1974	有藤 通世	.263	⑮⑮	419	110	25	63	20
1975	有藤 道世	.260	⑳⑳	419	109	21	59	22
1990	佐藤 健一	.271	⑩⑧	361	98	9	43	5
1991	佐藤 兼伊知	.236		208	49	4	20	2

<No.275 4月生まれ選手の通算成績(打者編)(2007/2/12)>

打率部門(1000打席以上)では、現役選手が7月と並び、最多の5人が上位10傑にランクインしている。特に3位争いが熱い。現役トップは3位鈴木尚(横浜)の打率.308。5位に打率.306の福留孝介(中日)、6位に打率.302の高橋由伸(読売)があり、引退した中西太(西鉄)を含め、6厘差に4人が集まっている。復活を期す鈴木、高橋か、昨年セントラル・リーグ首位打者の福留が3位となるか。

注目の筆頭はやはり金本知憲(阪神)。昨年は4月生まれの選手では初めて通算1000四球を記録。今期は得点部門で1位が狙えるかもしれない。現在1位は秋山幸二(ダイエー)の1231得点。金本は2位の1113得点である。118得点差は並々ならぬ差であるが、今期一気に到達して欲しいところだ。

また、金本は来年以降歴代1位に名乗り出そうな部門が多く、今期がその鍵となる一年になることは相違ない。

[記録は2006年末現在]

4月生まれ選手の主要部門通算成績上位10傑

打率			出塁率			長打率		
名前	所属	打率	名前	所属	出塁率	名前	所属	長打率
若松 勉	(ヤクルト)	.319	Chris Donnels	(オリックス)	.401	Boomer Wells	(ダイエー)	.555
Boomer Wells	(ダイエー)	.317	金本 知憲	(阪神)	.394	中西 太	(西鉄)	.553
鈴木 尚典	(横浜)	.308	福留 孝介	(中日)	.393	Mike Diaz	(ロッテ)	.547
中西 太	(西鉄)	.307	Mike Diaz	(ロッテ)	.388	福留 孝介	(中日)	.545
福留 孝介	(中日)	.306	中西 太	(西鉄)	.379	金本 知憲	(阪神)	.528
高橋 由伸	(読売)	.302	若松 勉	(ヤクルト)	.375	高橋 由伸	(読売)	.519
吉村 禎章	(読売)	.296	江藤 智	(西武)	.374	江藤 智	(西武)	.510
金本 知憲	(阪神)	.294	Boomer Wells	(ダイエー)	.372	Chris Donnels	(オリックス)	.507
赤星 憲広	(阪神)	.293	鈴木 尚典	(横浜)	.367	吉村 禎章	(読売)	.494
新井 宏昌	(近鉄)	.291	吉村 禎章	(読売)	.364	秋山 幸二	(ダイエー)	.491

※1000打席以上

4月生まれ現役選手の上位入線部門

四球			得点			本塁打		
名前	所属	四球	名前	所属	得点	名前	所属	本塁打
金本 知憲	(阪神)	1010	秋山 幸二	(ダイエー)	1231	秋山 幸二	(ダイエー)	437
白石 敏男	(広島)	936	金本 知憲	(阪神)	1113	金本 知憲	(阪神)	363
秋山 幸二	(ダイエー)	910	飯田 徳治	(国鉄)	1019	江藤 智	(西武)	354
江藤 智	(西武)	899	若松 勉	(ヤクルト)	1015	広沢 克己	(阪神)	306
飯田 徳治	(国鉄)	733	江藤 智	(西武)	978	Boomer Wells	(ダイエー)	277
広沢 克己	(阪神)	660	中 利夫	(中日)	952	中西 太	(西鉄)	244
堀 幸一	(ロッテ)	657	新井 宏昌	(近鉄)	933	若松 勉	(ヤクルト)	220
若松 勉	(ヤクルト)	574	白石 敏男	(広島)	911	高橋 由伸	(読売)	212
坪内 道則	(名古屋)	546	堀 幸一	(ロッテ)	894	飯田 徳治	(国鉄)	183
新井 宏昌	(近鉄)	544	広沢 克己	(阪神)	843	福留 孝介	(中日)	179

4月生まれ現役選手の上位入線部門

塁打

打点

長打

名前	所属	塁打	名前	所属	打点	名前	所属	長打
秋山 幸二	(ダイエー)	3927	秋山 幸二	(ダイエー)	1312	秋山 幸二	(ダイエー)	855
金本 知憲	(阪神)	3309	金本 知憲	(阪神)	1121	金本 知憲	(阪神)	707
若松 勉	(ヤクルト)	3274	江藤 智	(西武)	985	若松 勉	(ヤクルト)	618
飯田 徳治	(国鉄)	3001	広沢 克己	(阪神)	985	江藤 智	(西武)	608
広沢 克己	(阪神)	2945	飯田 徳治	(国鉄)	969	飯田 徳治	(国鉄)	590
江藤 智	(西武)	2841	Boomer Wells	(ダイエー)	901	広沢 克己	(阪神)	579
新井 宏昌	(近鉄)	2770	若松 勉	(ヤクルト)	884	堀 幸一	(ロッテ)	543
堀 幸一	(ロッテ)	2673	中西 太	(西鉄)	785	Boomer Wells	(ダイエー)	495
中 利夫	(中日)	2648	堀 幸一	(ロッテ)	772	新井 宏昌	(近鉄)	491
Boomer Wells	(ダイエー)	2470	新井 宏昌	(近鉄)	680	中西 太	(西鉄)	489

<No.276 5月生まれ選手の通算成績(打者編)(2007/2/18)>

5月生まれの現役選手も、2月・3月と同様だ。5月は上位5傑に入っている選手がいない。もともと上位なのは、犠打部門で井端弘和(中日)の7位と犠飛部門で柴原洋(ソフトバンク)の7位タイである。5月生まれの選手では王貞治(読売)、山内和弘(広島)、加藤秀司(南海)といった2000安打トリオがいるとは言え、これは寂しい限りだ。

[2006年末現在]

5月生まれ選手の主要部門通算成績上位10傑

打率			出塁率			長打率		
名前	所属	打率	名前	所属	出塁率	名前	所属	長打率
Carlos May	(南海)	.309	王 貞治	(読売)	.446	王 貞治	(読売)	.634
Phil Clark	(近鉄)	.305	Carlos May	(南海)	.390	Orestes Destrade	(西武)	.570
王 貞治	(読売)	.301	千葉 茂	(読売)	.384	Ralph Bryant	(近鉄)	.568
加藤 秀司	(南海)	.297	掛布 雅之	(阪神)	.381	掛布 雅之	(阪神)	.531
山内 和弘	(広島)	.295	Orestes Destrade	(西武)	.381	Phil Clark	(近鉄)	.527
掛布 雅之	(阪神)	.292	山内 和弘	(広島)	.378	山内 和弘	(広島)	.521
Art Lopez	(ヤクルト)	.290	加藤 秀司	(南海)	.372	加藤 秀司	(南海)	.512
井端 弘和	(中日)	.290	山口 政信	(広島)	.368	Carlos May	(南海)	.506
柴原 洋	(ソフトバンク)	.288	吉永 幸一郎	(読売)	.367	Rob Ducey	(日本ハム)	.491
Jim Lyttle	(南海)	.285	長崎 慶一	(阪神)	.363	Scott McClain	(西武)	.488

※1000打席以上

5月生まれ現役選手の上位入線部門

犠打			犠飛			二塁打		
名前	所属	犠打	名前	所属	犠飛	名前	所属	二塁打
奈良原 浩	(中日)	215	加藤 秀司	(南海)	105	山内 和弘	(広島)	448
角 富士夫	(ヤクルト)	205	王 貞治	(読売)	100	王 貞治	(読売)	422
弘田 澄男	(阪神)	176	山内 和弘	(広島)	88	加藤 秀司	(南海)	367
千葉 茂	(読売)	151	掛布 雅之	(阪神)	48	掛布 雅之	(阪神)	250
船田 和英	(ヤクルト)	151	宇野 勝	(ロッテ)	43	宇野 勝	(ロッテ)	249
高代 延博	(広島)	151	弘田 澄男	(阪神)	37	井上 登	(中日)	223
井端 弘和	(中日)	149	柴原 洋	(ソフトバンク)	36	弘田 澄男	(阪神)	220
湯上谷 宏	(ダイエー)	147	井上 登	(中日)	36	柴原 洋	(ソフトバンク)	206
田辺 徳雄	(読売)	145	船田 和英	(ヤクルト)	32	岡嶋 博治	(東映)	206
木下 富雄	(広島)	138	田辺 徳雄	(読売)	32	長崎 慶一	(阪神)	204
			興津 達雄	(広島)	32			

<No.277 6月生まれ選手の通算成績(打者編)(2007/2/23)>

6月生まれの現役選手。通算記録で目立つのは今季 2000 安打の期待がかかる前田知徳(広島)である。6月生まれの大選手といえば野村克也(西武)、張本勲(ロッテ)がいるが、前田が主要部門で3番手になるのも時間の問題と言えそうだ。

2007年3傑入りしそうなのは3部門。打席、安打、二塁打。この3部門すべてで3位にいるのは児玉明利(広島)である。もっとも可能性が高いのは安打。児玉とは57本差であり、早ければ5月に越えることが出来そうだ。打席と二塁打は、自己最高クラスの数字を残さないと厳しい。今季一気に越えるのか、それとも来季以降に持ち越されるのか。注目したい。

打率の部門では、2位に和田一浩(西武)がランクインしている。1位張本とは2厘差と僅かだが、それ以上に3位R.ペタジーニ(読売)とは3毛差。4位J.パチョレック(阪神)とも2厘5毛差と僅差の中におり、今季次第で1位にも4位にもなりそうだ。

[記録は2006年末現在]

6月生まれ選手の主要部門通算成績上位10傑

打率			出塁率			長打率		
名前	所属	打率	名前	所属	出塁率	名前	所属	長打率
張本 勲	(ロッテ)	.319	Roberto Petagine	(読売)	.446	Roberto Petagine	(読売)	.633
和田 一浩	(西武)	.317	松井 秀喜	(読売)	.413	松井 秀喜	(読売)	.582
Roberto Petagine	(読売)	.317	張本 勲	(ロッテ)	.399	和田 一浩	(西武)	.563
Jim Paciorek	(阪神)	.315	和田 一浩	(西武)	.392	Hal Breeden	(阪神)	.537
与那嶺 要	(中日)	.311	Frank Bolick	(ロッテ)	.392	張本 勲	(ロッテ)	.534
前田 智徳	(広島)	.305	Pedro Valdes	(ダイエー)	.389	Frank Bolick	(ロッテ)	.525
松井 秀喜	(読売)	.304	与那嶺 要	(中日)	.387	Dave Roberts	(近鉄)	.524
Pedro Valdes	(ダイエー)	.302	呉 波	(毎日)	.379	Jose Ortiz	(オリックス)	.517
城島 健司	(ソフトバンク)	.299	石井 浩郎	(横浜)	.379	城島 健司	(ソフトバンク)	.517
嶋 重宣	(広島)	.296	杉浦 享	(ヤクルト)	.370	野村 克也	(西武)	.508

※1000打席以上

6月生まれ現役選手の上位入線部門

打席			安打			二塁打		
名前	所属	打席	名前	所属	安打	名前	所属	二塁打
野村 克也	(西武)	11970	張本 勲	(ロッテ)	3085	張本 勲	(ロッテ)	420
張本 勲	(ロッテ)	11122	野村 克也	(西武)	2901	野村 克也	(西武)	397
小玉 明利	(阪神)	7479	小玉 明利	(阪神)	1963	小玉 明利	(阪神)	358
前田 智徳	(広島)	6948	前田 智徳	(広島)	1906	前田 智徳	(広島)	322
羽田 耕一	(近鉄)	6584	平野 謙	(ロッテ)	1551	片岡 篤史	(阪神)	269
平野 謙	(ロッテ)	6524	羽田 耕一	(近鉄)	1504	杉浦 享	(ヤクルト)	264
片岡 篤史	(阪神)	6180	中塚 政幸	(大洋)	1440	松井 秀喜	(読売)	245
柏原 純一	(阪神)	6076	柏原 純一	(阪神)	1437	与那嶺 要	(中日)	238

杉浦 享	(ヤクルト)	5847	杉浦 享	(ヤクルト)	1434	Bobby Marcano	(ヤクルト)	236
呉 波	(毎日)	5789	片岡 篤史	(阪神)	1425	平野 謙	(ロッテ)	234

<No.278 自身初のチーム最下位(2007/2/25)>

2007 年もオープン戦が始まり、“開幕までもう間もなくだ”という高揚感が沸き立つ時期である。また、球界出身の方々による「今季の順位予想」が見られるのもこの時期ならではの、である。見所はやはり楽天の最下位脱出。代わりに最下位になりそうなのはオリックス、と挙げる方も多いのではなかろうか。

最下位候補のオリックスの中で注目したいのは清原和博だ。清原は昨年までの実働 21 年でチームが最下位になった経験を持っていない。過去 2000 試合以上出場した選手は 36 人いるが、最下位を経験していないのは、現役の清原を含め 6 人しかいない。

2000 試合以上の出場経験を持つ選手は、チームの栄枯盛衰を共にしており、最下位経験がないのは珍しいことと言えるかもしれない。その中で特筆なのは伊東勤(西武)。実働 22 年間すべてAクラスである。

話を清原に戻すと、過去『初めてのチーム最下位の経験がもっとも遅かった実働年数』は、村田兆治(ロッテ)の 20 年である。清原は、史上最遅のチーム最下位経験となるのであろうか。もっとも、「実働して」であるが。

[記録は 2006 年末現在]

実働 16 年以上で初のチーム最下位

実働	投打	名前	年度	所属
20	投手	村田 兆治	1988	(ロッテ)
18	打者	山内 一弘	1969	(広島)
18	打者	高倉 照幸	1970	(ヤクルト)
18	打者	榎本 喜八	1972	(西鉄)
18	投手	北別府 学	1993	(広島)
17	打者	王 貞治	1975	(読売)
17	打者	池辺 巖	1978	(阪神)
17	投手	西本 聖	1992	(中日)
17	投手	大野 豊	1993	(広島)
17	打者	中嶋 聡	2003	(横浜)
17	打者	飯田 哲也	2005	(楽天)
16	投手	皆川 睦男	1969	(南海)
16	打者	和田 博実	1970	(西鉄)
16	投手	戸田 善紀	1980	(中日)
16	打者	高橋 慶彦	1991	(阪神)
16	打者	石毛 宏典	1996	(ダイエー)
16	打者	松永 浩美	1996	(ダイエー)
16	投手	星野 伸之	2000	(阪神)
16	打者	藤井 康雄	2002	(オリックス)

<No.279 まだ最下位しか経験していません(2007/2/26)>

自身の所属するチームが5年連続以上最下位だった選手は、過去33人いる。最高は1998年から2004年塩谷和彦が阪神とオリックス2球団にまたいで記録した7年連続である。

現役では、オリックス→楽天移籍組の小倉恒、金田政彦、佐竹学、徳元敏、竜太郎が昨年まで5年連続所属球団最下位を経験している。金子、佐竹は現役を退いており、6年連続の可能性があるのは、小倉、徳元、竜太郎の3人だ。

この中で竜太郎に注目すると、彼は実働1年目から5年目まで、最下位しか経験していないという事実が浮かび上がってきた。これは1962年木村勝男(近鉄)以来44年ぶり史上5人目の記録であった。もし、今季楽天が最下位になると、1962年斎田忠利(近鉄)以来45年ぶり3人目の記録となる。チームの記録とはいえ、彼自身も2年目以降出場が減り続けており、今季は自身の活躍と共に、チームを最下位から救って欲しいところだ。

[記録は2006年末現在]

実働1年目から所属球団最下位(5年以上)

年数	年度	名前	所属
6	1954年～1959年	大石 正彦	(洋松:大洋)
6	1957年～1962年	斎田 忠利	(大映、近鉄)
5	1955年～1959年	中村 敏行	(大洋)
5	1958年～1962年	木村 勝男	(近鉄)
5	2002年～継続中	竜太郎	(オリックス、楽天)

<No.280 実働年数が1年以上空いて(2007/3/3)>

T.ローズが日本球界に復帰する。オリックスの入団テストを受けていたローズが合格通知を受け、2年ぶりに日本球界の舞台に立つ。ただ、読売退団後、メジャーを目指したものの叶わず引退。野球自体にブランクのある選手がどこまで活躍できるか疑問を持たざるを得ない。

2006年まで、『実働が1年以上空いて実働を果たした選手』(=以後、再出場年度という)は、延べ1485人(1228人)がいる。ローズは2005年445打席を記録。年間200打席以上を記録した選手の場合に限ると、延べ106人である。最近では2006年に中村紀洋、リック.S、G.アリアスの3人がある。

さて、再出場年度と「その前の実働年度」(=以後、前の年度という)での成績を比較してみよう。ただし、白石敏男と山田潔は、再出場年度が前の年度となる年度があり、同じ年度を「再出場年度」と「前の年度」の両方で加算をした。

出場試合を見ようと思うが、年間試合数の変更にかかっている年度があるため、「出場試合÷年間チーム試合」で算出し、出場試合率として比較した。前の年度が83.3%に対し、再出場年度は55.8%。出場自体がここまで少なくなっていれば、安打、本塁打、打点すべての積算記録が前の年度より低くなるのは言うまでもない。

あくまでこれは全体の話であり、個人の成績を見ると、安打、本塁打、打点のすべてが上回っている選手もいる。過去25人いるが、ここ50年では1974年高橋二三男(太平洋)と2004年F.セギノール(日本ハム)の2人しかいない。

ローズと言えば、本塁打。2005年に記録した27本にどこまで迫れるか、もしくは超えるかが焦点であろう。前の年度で年間20本塁打を記録していたのは7人。そして再出場年度でも20本塁打記録したのは4人。今年8月で39歳になるローズにそこまでの期待ができるのだろうか。

[記録は2006年末現在]

実働が1年以上空いたシーズンで20本塁打以上

年度	本	名前	所属	年度	本	所属
1989	27	Tony Brewer	(日本ハム)	1987	35	(日本ハム)
2000	20	Luis Lopez	(広島)	1998	17	(ダイエー)
2004	24	SHINJO	(日本ハム)	2000	28	(阪神)
2004	41	小久保 裕紀	(読売)	2002	32	(ダイエー)
2004	44	Fernando Seguinol	(日本ハム)	2002	23	(オリックス)